

第3学年 英語科学習指導案

日 時：平成24年10月11日（木）5校時
学 級：3年B組 男子14名 女子21名 計35名
場 所：3年B組教室
授 業 者：佐々木伸二

1 単元名 Unit 5 Electronic Dictionaries—For or Against (NEW HORIZON English Course 3)

2 単元について

本単元は、電子辞書を話題として取り上げ、その使用の是非についてインターネットの掲示板で各自の意見を出し合う中で、相手の意見に対して賛成か反対かを明確にし、その根拠となる自分の考えを伝える形で議論の仕方の表現を学習する構成となっている。また、この中で電子辞書の利便性を説明する一方で従来の辞書の有効性も主張され、英語の学習の視野を広げるヒントも示されている。これらを通して英語学習へのさらなる意欲喚起も期待され、中学校生活の終盤に差しかかっているこの時期に適した題材である。

言語材料としては現在分詞と過去分詞の後置修飾と間接疑問文を取り扱う。後置修飾に関しては、これまでに「前置詞＋語句」、「不定詞の形容詞的用法」を学習しており、段階的に英語特有の文構造には触れてきてはいるものの、本単元で学習する現在分詞と過去分詞の後置修飾の文構造を理解するのは容易なことではないことが予想される。また、間接疑問文についても、既習の疑問詞を使った疑問文と混乱することに注意をしながら指導する必要がある。そのため、いずれの言語材料についても言語活動を多く取り入れることでその語順や文構造の違いに慣れさせていきたい。

3 生徒の実態

素直な生徒が多く予習や課題などは習慣化されており、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができる生徒である。ペア学習やグループ学習などもお互いに教え合う姿が見られ、授業が「やりやすい」学級であり、3年生になってからは、徐々にではあるが授業への積極性も見えてきた。しかし、上位層と下位層の力の差という課題があり、帯活動のQ&Aで既習事項の復習に取り組みせたり、授業の中で教え合いの場面なども仕組みだっているがあまり効果を上げることができない。

本校研究副題にある「表現活動」に関しては、その基礎を支える単語や文法の知識は、ある程度あるものの、その知識が断片的であるためそれらを使いこなすことが出来ないという傾向が、作文などで顕著に表れている。この現状を改善していくために、知識のつながりを配慮した意図的な「表現活動」を仕組み、学力を確かなものとするとともにさらなる意欲喚起を図りたい。

4 単元の目標

- (1) 現在分詞、過去分詞の後置修飾を用いて身のまわりのことを説明することができる。
- (2) 間接疑問文を用いて簡単な対話や文を作ることができる。
- (3) 電子辞書と紙の辞書について考え、自分の意見とその理由を書くことができる。
- (4) 現在分詞、過去分詞の後置修飾を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
- (5) 間接疑問文の形・意味・用法を理解できる。

5 単元の指導計画と評価規準

時間	パート	主な学習内容と活動	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 本時	Starting Out	・現在分詞・過去分詞の後置修飾の用法を理解する。 ・現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文を作る。	自分で工夫して紹介文を作ることができる。	現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文とともに既習事項を使って友達などを紹介できる。		現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
		Starting Out の本文を理解する。			クイズの内容とその答えを理解できる。	
3	Dialog	間接疑問文の用法を理解する。	間接疑問文を使用し簡単なスキットを作る。	間接疑問文を用いた文を用いて簡単な対話ができる。		間接疑問文を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
4		Dialog の対話文の内容を理解する。		話者の気持ちを考えて音読することができる。	対話文を読み、対話の内容を理解することができる。	
5	Reading for Communi- cation	電子辞書についての各々の意見の内容を理解する。		意見の内容を考慮して適切に読むことができる。	本文を読み、議論の内容を理解することができる。	
6		電子辞書についての各々の意見の内容や論点を理解する。		それぞれの人の意見の内容を考慮して適切に読むことができる。	本文を読み、議論の内容とその論点を理解することができる。	
7	Review	・Unit 5 の新出文型を復習する。 ・本文を読んで、自分の意見をまとめ、書く。		本文や例文を参考にして自分の意見をまとめ、書くことができる。		現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文、間接疑問文の構造について理解している
8	Listening Plus 5	議論の内容について正確に聞きとる。			議論の内容について聞き取ることができる。	
9	Speaking Plus 4	電話での応答（申し出、伝言）の仕方を理解し、表現できる		電話での対話の状況を考慮し、正確な発音やイントネーションで読むことができる。	電話での応答の内容を理解できる。	電話での申し出や伝言を頼むときの表現を用いた文を理解できる。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文と既習事項を使った文で友達や先生を紹介する文を作らせ発表させる。
- ②現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文の形・意味・用法を理解させる。

(2) 本研究とのかかわり

導入で既習事項の「定着を図るための表現活動」を位置付け、これまで学習した文型の定着を図りながら授業の雰囲気作りに役立てるとともに、本時の学習課題に関連する内容も取り入れて学習課題の新出文型の理解の一助にしたい。また、新出文型の練習とそれを活用した自己表現活動に「課題解決を図るための表現活動」を位置付ける。ここでは、身近な話題を取り上げ課題解決への意欲喚起を促し、表現活動をさせることにより新出文型の理解を深めさせたい。また、既習事項とも組み合わせて関連のあるまとまりのある文を作らせて運用力、表現力を高める活動にもつなげたい。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	紹介の内容を自分で考え、意欲的に文を作ることができる。	・紹介の仕方を一緒に考え、語句や表現を教える。
外国語表現の能力	現在分詞、過去分詞の後置修飾や既習事項を使って文を作り発表することができる。	・期間指導を行い、分からない語句や表現を教える。 ・友達の教え合いを促す。
言語や文化についての知識・理解	現在分詞、過去分詞の後置修飾を用いた文を使った文の意味と用法を理解し、基本的な問題を解くことができる。	・期間指導を行い、つまづいているところを説明する。 ・友達の教え合いを促す。

(4) 本時の展開

段階	学 習 活 動		○留意点・●評価・☆支援
導 入 10 分	1 あいさつ	・教師と英語で挨拶する。	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気作りと既習事項の定着に配慮して短時間でやる。 ☆問いの内容や答え方が分からなければヒントを与える。
	2 Warm-up 表現 1	<ul style="list-style-type: none"> ・教師との Q & A 既習事項を使い、何問かを質問する Warm Up の後半で現在進行形、受け身形の文を使用した文を使い、本時の学習課題へとつなげる。 	
現在分詞や過去分詞を使って身近な人を紹介しよう！			
展 開 35 分	4 基本文型練習と確認 表現 1	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との会話を通して基本文型を説明し、ポイントを記入させる。 ・口頭練習 ・練習問題に取り組みさせ基本文型を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味を持てる教材を準備する。 ・ピクチャーカード使用 ・ワークシート使用 ●現在分詞、過去分詞の後置修飾を使った文の意味、用法を理解できたか。 ☆期間指導を行い理解度を見て、つまづいている生徒には支援を行う。
	5 自己表現 表現 2 表現 3、4	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と基本文を用い、先生や友達の紹介文を作る。 ・紹介文の形式は最初に基本文を使った文を使用し誰（何）について紹介しているのかの文を作り、その人についてさらに説明をする文を2～3文付け加えさせる。 ※取り組みやすいように紹介する相手について簡単な情報を与える。 ・何人かに発表させ、工夫している点を交流させる。 ・他の人の発表を聞いて自分の文に修正を付け加えてもいいこととする。 	
終 末 5 分	6 本時のまとめと次時の予告 7 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の自己評価をする。 ・次時の学習内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入